

令和3年度 学校経営全体構想図（椎葉村立椎葉小学校）

学校経営の基本方針

- 1 人間尊重の精神を基盤に、児童を中心においた活力ある教育活動を推進する。
- 2 基礎・基本の定着（学力向上）を図る指導を通して、一人一人のよさや可能性を最大限に生かし伸ばす教育を推進する。
- 3 学習指導要領の趣旨を生かした授業の工夫改善・充実に努め、教育者としての責任感・使命感の確立を図る。
- 4 児童の発達段階に応じた体験学習や集合学習を通じた心の教育・キャリア教育を推進する。
- 5 地域に根ざし、地域の教育力を生かした教育の積極的推進及び学校運営協議会を活用した地域とともにある学校づくりを推進する。
- 6 心身両面の健康づくりの基盤となる体力向上と食育の推進及び家庭・地域への啓発と連携を図る。
- 7 安全・安心な学校であるよう、危機管理・防災体制の整備と充実及び安全教育・安全点検の徹底を図る。
- 8 ふるさと椎葉の文化や伝統を尊重するとともに、外国の文化を理解し尊重する態度の育成（地域理解・国際理解教育の推進）

学校教育目標

ふるさとの自然に学び、互いに伝え合い、たくましく生きる椎葉小の子どもの育成

学校経営ビジョン

「つながり」を学ぶ そして、学ぶことを「喜び」に

指導・支援

児童の変容

取組事項と具体的な方策

- ◎ **（知育）** つながりを学び、生かすことを通して、思考力・判断力・表現力を磨き、物事に対する見方・考え方や学ぶことを喜びと感じる心を育む。
 - 1 ICT機器を活用した授業改善及び家庭学習の充実→学びの個別最適化と協働化へ
 - 2 物事（人・事象）のつながりに着目した学習→意義や役割を見出そうとする学びへの転換
 - 3 音読・暗唱及び読書の習慣化→語彙力・読解力の育成へ
 - 4 学習の基盤となる態度や能力の育成に向けた組織的取組→学びのスタンダードへ
- ◎ **（徳育）** つながりを学び、生かすことを通して、自己有用感を高めるとともに、感謝したり貢献したりする心や態度を育む。
 - 1 相手意識・目的意識のある礼儀作法の習得（挨拶、会釈、言葉遣い）→良識ある社会人へ
 - 2 異世代、地域住民との交流の推進→様々な共同体への所属意識と自己有用感の高揚
 - 3 児童の実態に基づいた道徳教育、人権教育の充実→多様性への理解と順応
 - 4 学校での学びを家庭や地域でも発揮する場の工夫→「いつでも、どこでも、誰にでも」へ
- ◎ **（体・食育）** つながりを学び、生かすことを通して、将来にわたり、健康な心と体を保持増進しようとする意識と態度を育む。
 - 1 体力向上プランを活かした体育科の授業改善と日常運動（ジョギング、縄跳び）の推進及び健康・衛生保持のための生活習慣の定着と各種検査後の治療率向上→自己管理能力の育成へ
 - 2 食に関する指導（「弁当の日」を含む）の充実→地産地消、地元の食文化の継承へ
 - 3 自他の安全を守る行動についての理解促進→危険予知・回避能力の育成へ
- ◎ **（家庭や地域との連携・協働）** つながりを学び、生かすことを通して、地域とともにある学校づくりと学校を核とした地域づくりを一体的に推進する。
 - 1 地域教材・人材を活用した教育活動の充実、豊かな体験活動・交流活動の推進及び伝統文化の継承活動→ふるさとのよさに気づき、ふるさとを愛する心の醸成（心の拠り所づくり）
 - 2 村づくりの方針に則った地域との協働活動の展開→持続可能な社会の構築に向けた学校の役割を果たす

授業改善

研究主題及び副題

自分の考えを主体的に表現できる児童の育成
～考えをもたせ、深めさせるための手立ての工夫を通して～

〈教師の姿勢・指導方針〉

- 人権感覚を根底として、指導に当たる
- 目的意識・相手意識を重視する
- 教育のプロとして誇りはもつが、^{まごり}傲りは要らない
- できるだけ見届ける指導を行う
- 小さな成長を認め、伝える（可視化→自覚に）

教育は感化なり

